

学費ゼロの願い受け

参院選候補

駆ける

人なつこい笑顔が親しみやすく、力強い訴えが仲間を奮い立たせます。

党神奈川県委員会が100力所をめざして取り組む「学費ゼロ化アクション」対話宣伝では先頭に立ち、「今国会で何としても学費無償化への一步を」と訴えています。毎週金曜の夕方は横浜駅西口でシルポードを持ち対話。「進路の選択に学費が影響したか」の質問には、学生や若者から「国公立しか選べなかった」「私立の理系に行きたいけ

あさか 由香さん 新

神奈川県選挙区(改選数4)



浅賀・ゆか 1980年、横浜市生まれ。筑波大学卒。党准中央委員、県副委員長

ど、弟もいるので学費が心配」などの声が。「医者になりたい」と言う孫を応援したい」と、それまでの蓄えに加え、毎月15万円の年金

から10万円を私立大の学費に充てていると話す女性もいました。

自身も大学時代、奨学金を借り、アルバイトを五つ

掛け持ちして学費と生活費を稼ぎました。仕事は飲食店や家庭教師など賄い付きが第一条件で、とにかく切り詰めた生活。「学ぶ時間を削るか、学んで借金をするか」―20年たつても状況が変わっていないことに怒りを感じます。

要政党が大学などの学費無償化や負担軽減を公約しましたが、学費の値上げすら止められません。「実現する気がないのなら、あさか由香にやらせてください」

「選挙のためのスローガンでなく、要求実現を求める一人ひとりの声を聞き、社会を動かしてきた共産党だから、できる」と訴えます。

学費ゼロを実現するには、大企業・大株主優遇や大軍拡に切り込む必要があります。「大軍拡は財源だけの問題ではない。大学や産業などが軍事に組み込まれていく。その構造から逃れられなくなり、軍縮に向かいにくくなる」と危機感を感じています。

毎日駆けずり回る両親と地域の党員を見て育ちました。「人権を守り、平和をつくるのは、共産党しかない」と確信しています。